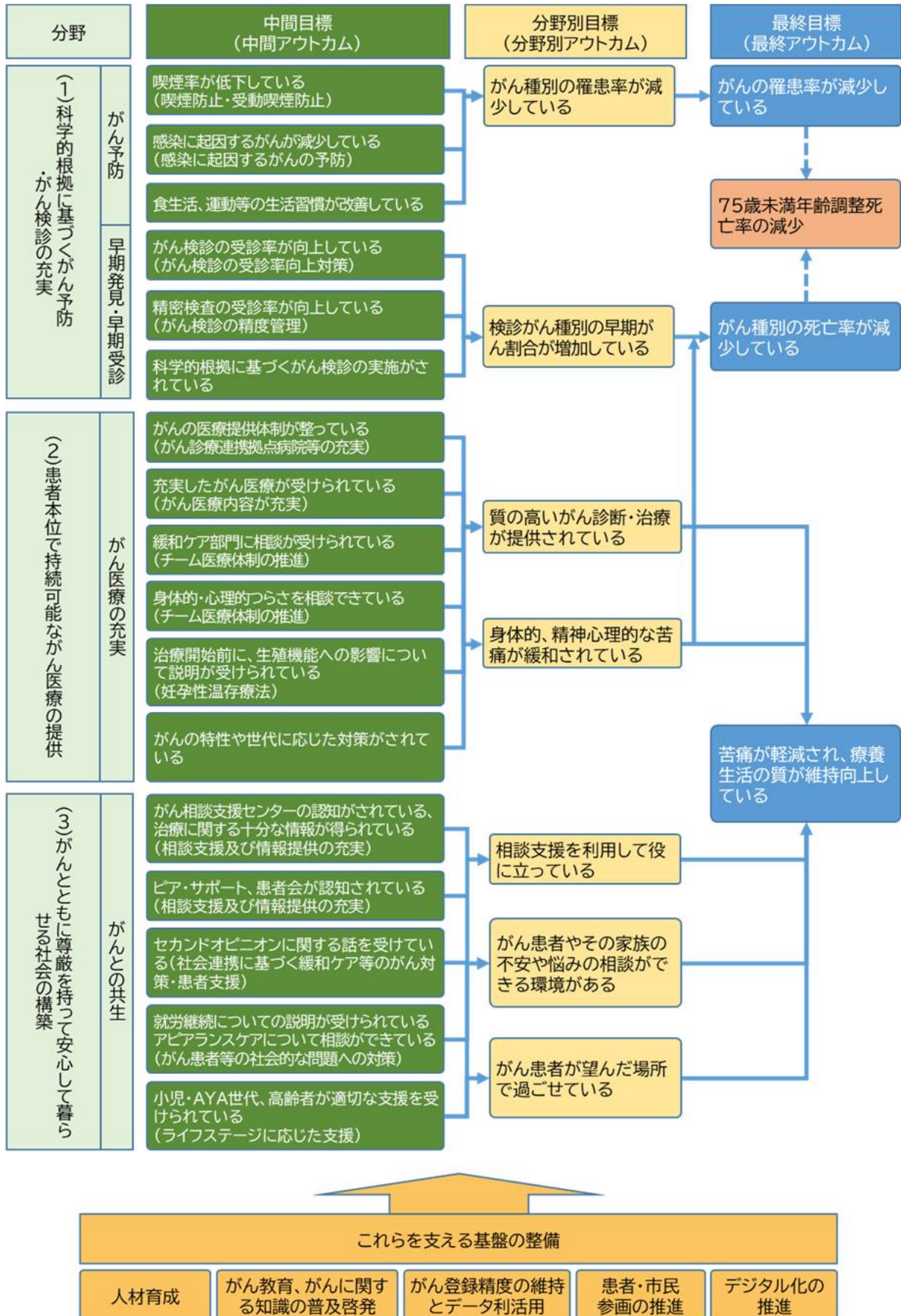


第4次香川県がん対策推進計画のロジックツリーと測定指標

第4次香川県がん対策推進計画(ロジックツリー)



全体目標

評価指標	現状値 (2022年)	目標値	出典
がん年齢調整死亡率 (75歳未満、10万人あたり)	男性 76.0 女性 50.0	65.2 47.1	国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(人口動態統計)

1 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実

めざす姿					
県民が、正しい知識にもとづいたがん予防に取り組み、がん検診による早期発見・早期治療により、がんによる死亡、がんの罹患が減少している					
最終目標 (最終アウトカム)	評価指標	現状値		目標	出典
がんの罹患率が減少している	がんの年齢調整罹患率 (全部位/10万人あたり)	男性 女性	474.5 343.5	減少	全国がん登録 平成31(2019)年
がん種別の死亡率が減少している	がん種別年齢調整死亡率※ (75歳未満、10万人あたり)	胃 肺 大腸 子宮 乳	7.0 11.2 7.6 4.7 10.4	減少	人口動態統計 令和4(2022)年
分野別目標 (分野別アウトカム)	評価指標	現状値		目標	出典
がん種別の罹患率が減少している	がん種別年齢調整罹患率※ (全年齢、10万人あたり)	胃 肺 大腸 子宮頸 乳	47.5 44.7 53.1 16.1 94.1	減少	全国がん登録 平成31(2019)年
検診がん種別の早期がん割合が増加している	検診がん種の進展度のうち「限局」の割合	胃 肺 大腸 子宮頸 乳	62.0% 43.4% 47.1% 41.6% 64.3%	増加	全国がん登録 平成31(2019)年

※胃、肺、大腸は男女計、子宮(子宮体と子宮頸)、子宮頸、乳は女性のみ。

<がんの1次予防(罹患リスクの低減)>

中間目標 (中間アウトカム)	評価指標	現状値		目標	出典
喫煙率が低下している	20歳以上の喫煙率	15.6%		8.0%	国民生活基礎調査 令和4(2022)年
感染に起因するがんが減少している	がん種別年齢調整罹患率(全年齢、10万人あたり)(一部再掲)	胃 子宮頸 肝	47.5 16.1 13.5	減少	全国がん登録 平成31(2019)年

<がんの2次予防(早期発見・早期受診)>

中間目標 (中間アウトカム)	評価指標	現状値	目標	出典
検診受診率が向上している	検診受診率 ※40歳～69歳 (胃がんは50歳～69歳、子宮頸がんは20歳～69歳)	胃 52.7% 肺 54.0% 大腸 47.9% 子宮頸 48.8% 乳 52.2%	60%以上	国民生活基礎調査 令和4(2022)年
精密検査受診率が向上している	精密検査受診率 ※40歳～74歳 (胃がんは50歳～74歳、子宮頸がんは20歳～74歳)	胃 93.0% 肺 94.3% 大腸 79.2% 子宮頸 86.5% 乳 96.7%	90%以上	地域保健・健康増進事業報告 令和3(2021)年

2 患者本位で持続可能ながん医療の提供

めざす姿				
県民が、どこでも質の高いがん医療を受けることができる				
最終目標 (最終アウトカム)	評価指標	現状値	目標	出典
苦痛の軽減、療養生活の質が維持向上している	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	62.3%	増加	患者体験調査 【問 35-7】 平成 30(2018)年
分野別目標 (分野別アウトカム)	評価指標	現状値	目標	出典
質の高いがん診断・治療が提供されている	がんの診断・治療全体の総合的評価	7.9点 (平均点)	向上	患者体験調査 【問 23】 平成 30(2018)年
身体的、精神心理的な苦痛が緩和されている	身体の苦痛や気持ちのつらさを和らげる支援は十分であると回答した者の割合	38.1%	向上	患者体験調査 【問 36-1】 平成 30(2018)年

<がん医療提供体制等の充実>

中間目標 (中間アウトカム)	評価指標	現状値	目標	出典
がんの医療提供体制が整っている	がん診療連携拠点病院の数	5病院	維持	現況報告 令和5(2023)年
充実したがん医療が受けられている	一般の人が受けられるがん医療は数年前と比べて進歩したと回答とした人の割合 (参考指標)	68.6%	—	患者体験調査 【問 30-1】 平成 30(2018)年

緩和ケア部門に相談ができています	専門的な緩和ケア部門(緩和ケア外来や緩和ケアチーム)に相談したことがある人の割合	10.2%	向上	香川県がん患者ニーズ調査【問 29】令和4(2022)年
身体的・心理的なつらさを相談できている	身体的なつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談できる人の割合	35.9%	向上	患者体験調査【問 35-5】平成 30(2018)年
	心のつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談できる人の割合	21.1%	向上	患者体験調査【問 35-6】平成 30(2018)年
治療開始前に、生殖機能への影響について説明が受けられている	最初のがん治療が開始される前に、医師からその治療による不妊の影響について説明を受けた人の割合	49.0%	向上	患者体験調査【問 16】平成 30(2018)年

3 がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

めざす姿				
県民が、がんとともに尊厳を持って安心して暮らすことができている				
最終目標 (最終アウトカム)	評価指標	現状値	目標	出典
苦痛の軽減、療養生活の質が維持向上している	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合(再掲)	62.3%	増加	患者体験調査【問 35-7】平成 30(2018)年
分野別目標 (分野別アウトカム)	評価指標	現状値	目標	出典
相談支援を利用して役に立っている	がん相談支援センターを利用したことがある人のうち「役に立った」と回答したがん患者の割合(参考指標)	82.1%	—	香川県がん患者ニーズ調査【問 28-3】令和4(2022)年
	ピア・サポートを利用したことがある人のうち「役に立った」と回答したがん患者の割合(参考指標)	73.3%	—	香川県がん患者ニーズ調査【問 18-2】令和4(2022)年
がん患者やその家族の不安や悩みの相談ができる環境があると感じている	がん患者の家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所が十分であると回答した人の割合	43.5%	向上	患者体験調査【問 30-2】平成 30(2018)年
がん患者が望んだ場所で過ごせている	「望んだ場所で過ごせた」と回答したがん患者遺族の割合(参考指標)	47.9%	—	遺族体験調査【問 18-d】平成 30(2018)年

<相談支援及び情報提供>

中間目標 (中間アウトカム)	評価指標	現状値	目標	出典
がん相談支援センターの認知がされている	がん相談支援センターを知っている人の割合 (「知らない」と回答した割合から逆算)	58.3%	向上	香川県がん患者ニーズ調査【問 28】 令和4(2022)年
治療に関する十分な情報を得ることができている	治療決定までに医療スタッフから治療に関する十分な情報を得られた患者の割合	71.7%	向上	患者体験調査【問 15-1】 平成 30(2018)年
	治療スケジュールの見通しに関する情報を十分得ることができた人の割合	70.5%	向上	患者体験調査【問 20-1】 平成 30(2018)年
ピア・サポート、患者会が認知されている	患者会やピア・サポートを知っている人の割合 (「知らない」と回答した割合から逆算)	31.6%	向上	香川県がん患者ニーズ調査【問 18】 令和4(2022)年

<社会連携に基づく緩和ケア等のがん対策・患者支援>

中間目標 (中間アウトカム)	評価指標	現状値	目標	出典
セカンドオピニオンに関する話を受けている	がん治療前に、セカンドオピニオンに関する話を受けたがん患者の割合	26.8%	向上	患者体験調査【問 13】 平成 30(2018)年

<がん患者等の社会的な問題への対策(サバイバーシップ支援)>

中間目標 (中間アウトカム)	評価指標	現状値	目標	出典
就労継続について説明が受けられている	治療開始前に、就労継続について説明を受けたがん患者の割合 (参考指標)	36.0%	—	患者体験調査【問 28】 平成 30(2018)年
がんと診断された後も仕事を継続できている	がんと診断された後も仕事を継続していたがん患者の割合(「退職・廃業した」と回答した割合から逆算)(参考指標)	75.6%	—	患者体験調査【問 29-1】 平成 30(2018)年
職場や仕事上の関係者から治療と仕事を続けられるように配慮されている	がんの治療中に、職場や仕事上の関係者から治療と仕事を両方続けられるような勤務上の配慮があったと回答したがん患者の割合(参考指標)	69.7%	—	患者体験調査【問 26】 平成 30(2018)年

アピランケアについて相談ができている	外見の変化に関する悩みを相談できたがん患者の割合	32.3%	向上	患者体験調査【問 22】 平成 30(2018)年
身体的・心理的なつらさを相談できている	身体的なつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談できる人の割合(再掲)	35.9%	向上	患者体験調査【問 35-5】 平成 30(2018)年
	心のつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談できる人の割合(再掲)	21.1%	向上	患者体験調査【問 35-6】 平成 30(2018)年

4 これらを支える基盤の整備

<がん教育、がんに関する知識の普及啓発>

中間目標 (中間アウトカム)	評価指標	現状値	目標	出典
がんに関して正しい知識に基づいて理解できている	がんと診断されてから周囲に不必要に気を使われていると感じると回答した患者の割合(参考指標)	11.9%	—	患者体験調査【問 35-3】 平成 30(2018)年
	(家族以外の)周囲の人からがんに対する偏見を感じると回答した患者の割合(参考指標)	5.5%	—	患者体験調査【問 35-4】 平成 30(2018)年

<がん登録の精度の維持とデータ利活用の推進>

中間目標 (中間アウトカム)	評価指標	現状値	目標	出典
がん登録の精度が維持されている	DCI(%)	3.9	維持	全国がん登録 平成 31(2019)年
	DCO(%)	2.5		
	M/I比	0.35		